

## 1. 計画期間

平成27（2015）年度から令和6（2024）年度までの10年間とします。

## 2. 基本理念

本市の今後のまちづくりについての考え方を基本理念として定めます。

市民が主役という考えのもと、多様な主体が「協働」してまちづくりに取り組むとともに、先人たちが築き上げてきたまちの財産を継承しながら、新たなまちの魅力や個性を「創造」し、将来につなげていくことで、市民が夢と希望を持ち、心豊かに暮らしていくことのできる「自立」したまちを目指す

人口減少社会や少子高齢化社会の進展によって市民生活に及ぼされる様々な影響への対応が、重要かつ喫緊の課題となっています。

今後、人口規模などが縮小する中では、あらゆる場面においてこれまでどおりの状態や環境を整えていくことは困難になることが予想されます。

こうした中、“自分たちが住むまちは、どのような姿が望ましいのか”という市民の思いを尊重しながら、市民、地域住民組織、事業者、行政など様々な主体が同じ目線に立って、互いに力を合わせ、それぞれの地域の特徴を活かした活動をすすめるとともに、地域の枠を超えて互いに補完しあうことにより、日本一広大な市域における更なる一体感の醸成を図ります。(協働)

また、先人たちが築き上げてきた伝統文化や産業、風土などの地域資源をしっかりと受け継ぎ、その価値を高めながら、多様な視点や新たな価値観を取り入れ、更なる魅力や個性を創り出します。(創造)

さらには、将来にわたり持続可能なまちづくりをすすめるため、夢と希望を持てる豊かな地域社会の実現を図ります。(自立)

長期的な視点を持ってまちづくりの方向性を見定め、選択と集中を意識しながら計画期間になすべきことを示すとともに、総合的・横断的・積極的な施策の展開を図ります。

市民が自信と誇りを持って、社会の一員としての役割を果たし、一人ひとりの行動が、国際社会全体で取り組むSDGs(持続可能な開発目標)の貢献へとつながるよう、市民とともにまちづくりに取り組みます。

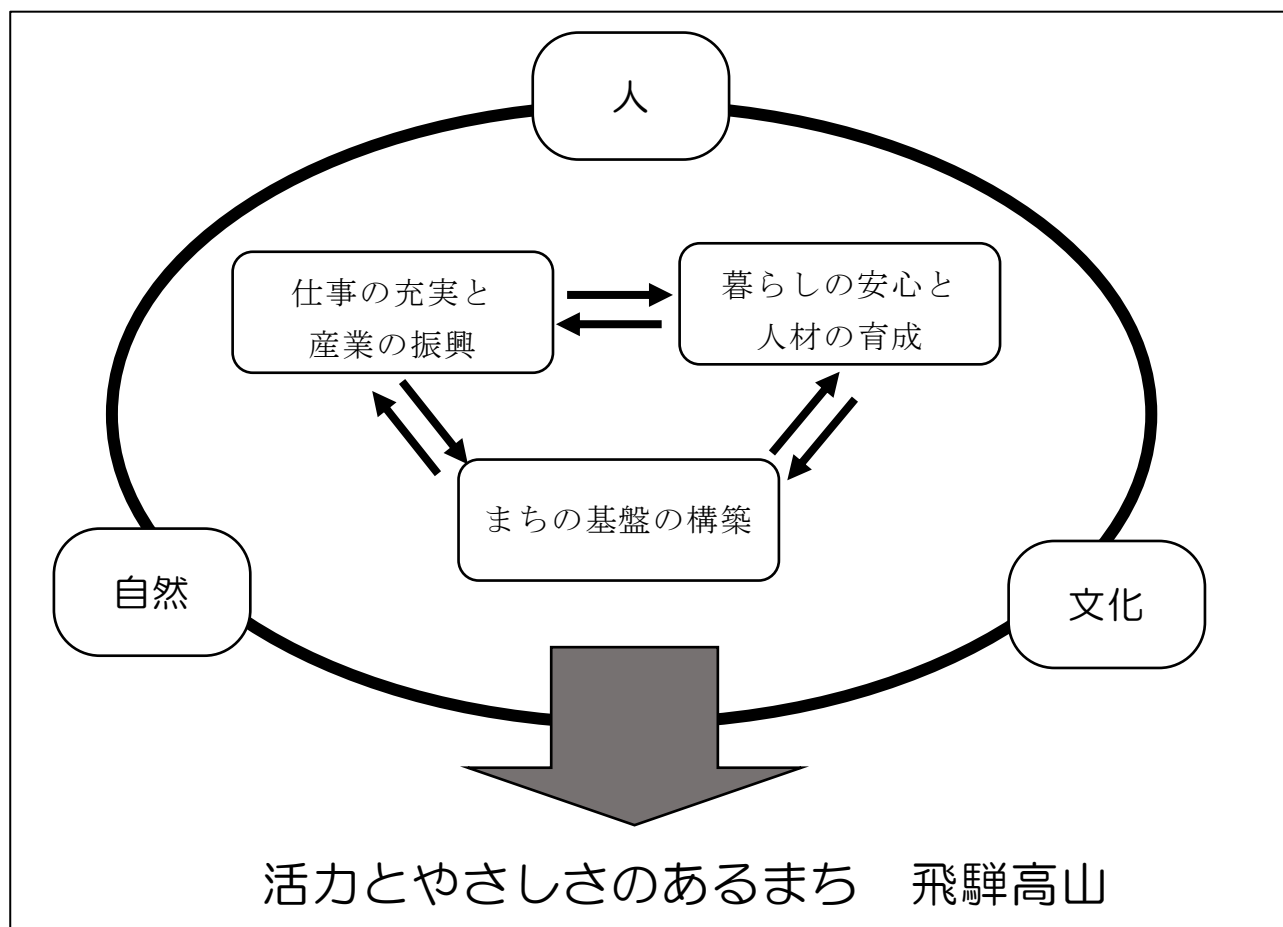
### 3. 都市像

本市の将来のあるべき姿を都市像として掲げます。

人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛騨高山

本市が誇る魅力、財産である「人」・「自然」・「文化」が様々な形で組み合わせり、活かすことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちになることを将来の姿として描きます。

仕事の充実と産業の振興、暮らしの安心と人材の育成、まちの基盤の構築をまちづくりの方向性の基本的な考え方として、それぞれが相関関係を保ちながら好循環をもたらす取り組みにより、活力が生まれやさしさが育まれるまちづくりをすすめていきます。



## 4. 人口の将来展望と計画人口

### (1) 人口の将来展望

人口減少の進展とともに高齢化率が上昇し、年少人口と生産年齢人口の割合が低下するという人口動向を考慮し、持続可能なまちづくりをすすめるため、人口減少の緩和に加え、人口構造のあり方という視点を重視し、目指すべき人口の将来展望を設定します。

#### 1) 自然動態の改善

合計特殊出生率を令和27（2045）年までに段階的に2.13に上昇させることを目指します。

#### 2) 社会動態の改善

生産年齢人口における社会増減（転入数と転出数の差）を段階的に改善し、令和27（2045）年には、将来推計に対して年間300人の増となることを目指します。

#### 3) 将来展望の設定

目指すべき人口の将来展望（令和27（2045）年）を71,000人とします。

### (2) 計画人口

人口の将来展望を踏まえ、令和7（2025）年の計画人口を82,000人とします。

計画人口を目指すため、合計特殊出生率、社会増減（転入数と転出数の差）の目標値を以下のとおり設定します。

	現状値 (2019)	目標値 (2025)
合計特殊出生率	(2017) 1.75	1.83
社会増減（転入数－転出数）	▲336人	▲135人